

病床機能報告データ等に基づく分析

①病棟の平均在棟期間について

(H28病床機能報告データ)

データ・方法等：

- 医療機関の病床区分や人員配置等に関する研究
(H28-医療-指定-029 / 研究代表者：産業医科大学松田晋哉教授)
- 平成28年度分の病床機能報告データを利用
- 平成27年7月1日～平成28年6月30日の1年間の各病棟の在棟患者延数、新規入棟患者数、退棟患者数を用いて、平均在棟日数と1日あたり患者数を計算

$$\text{平均在棟日数} = \frac{[6-②\text{在棟患者延べ数}__(47)]}{([6-①\text{新規入棟患者数}__(43)] + [6-③\text{退棟患者数}__(48)]) \div 2}$$

$$1\text{日あたり患者数} = \frac{[6-②\text{在棟患者延べ数}__(47)]}{366}$$

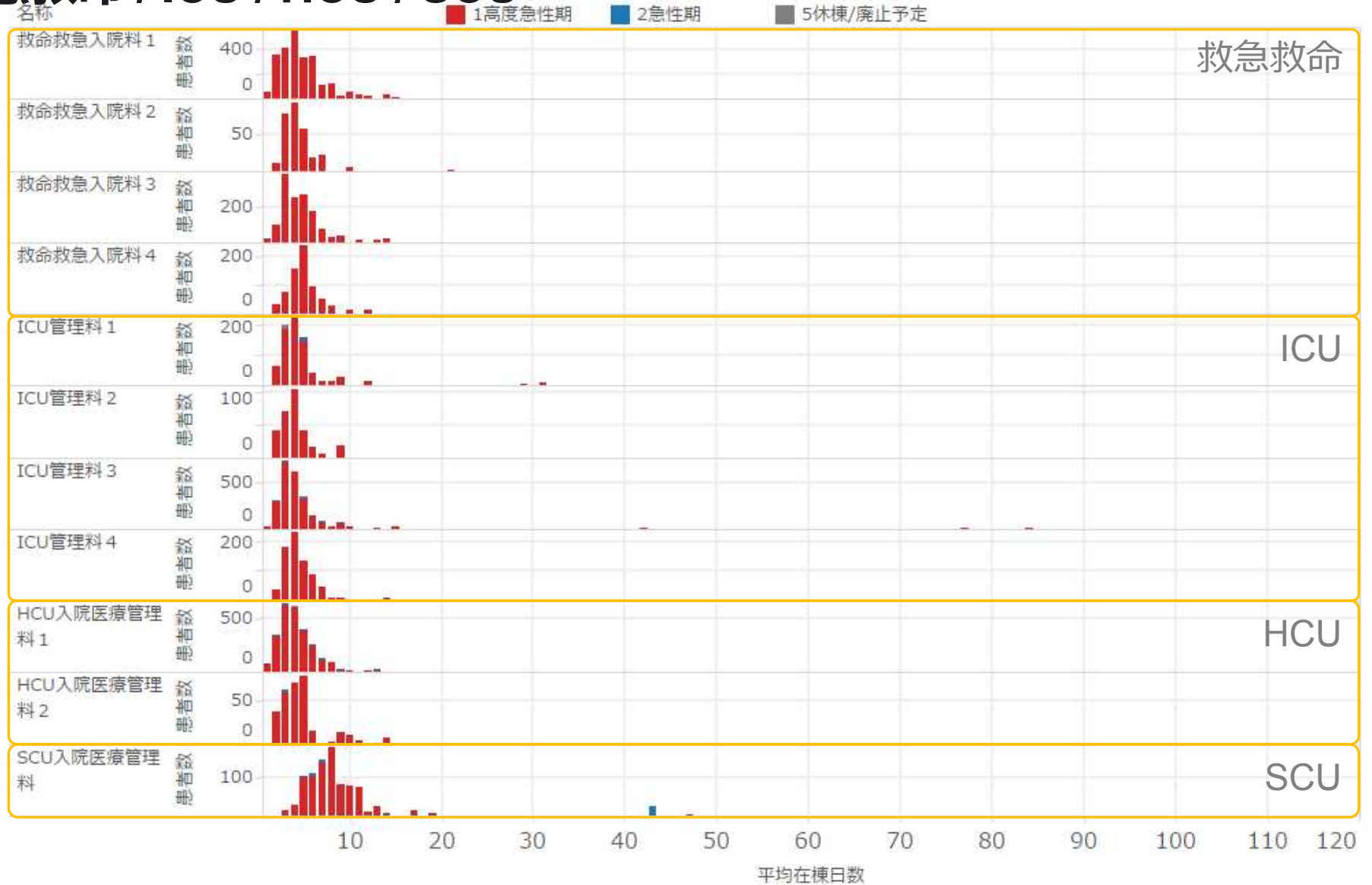
- 入院基本料等の種類別に、平均在棟日数別の患者数をグラフ化して、全体的な入院日数の分布を確認するための資料を作成

注意事項：

- 医療機関からの報告データをほぼそのまま利用した粗集計結果であり、一部に極端な値(在棟日数が極大/極小となるもの)が含まれている
- 一部の地域のデータは今回の集計に反映されていない

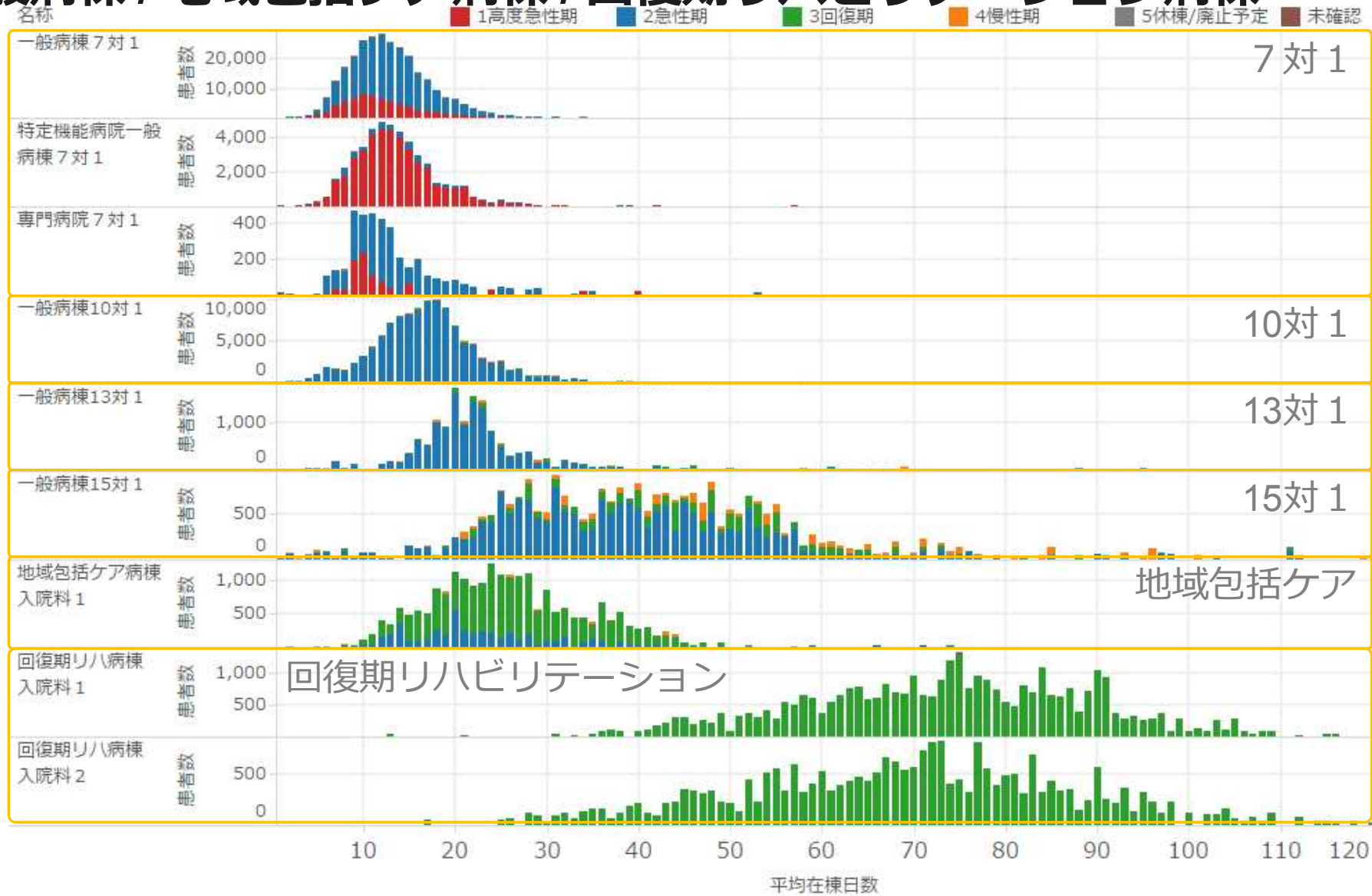
病棟の平均在棟日数の分布 (H28病床機能報告：2016年機能)

救急救命 / ICU / HCU / SCU



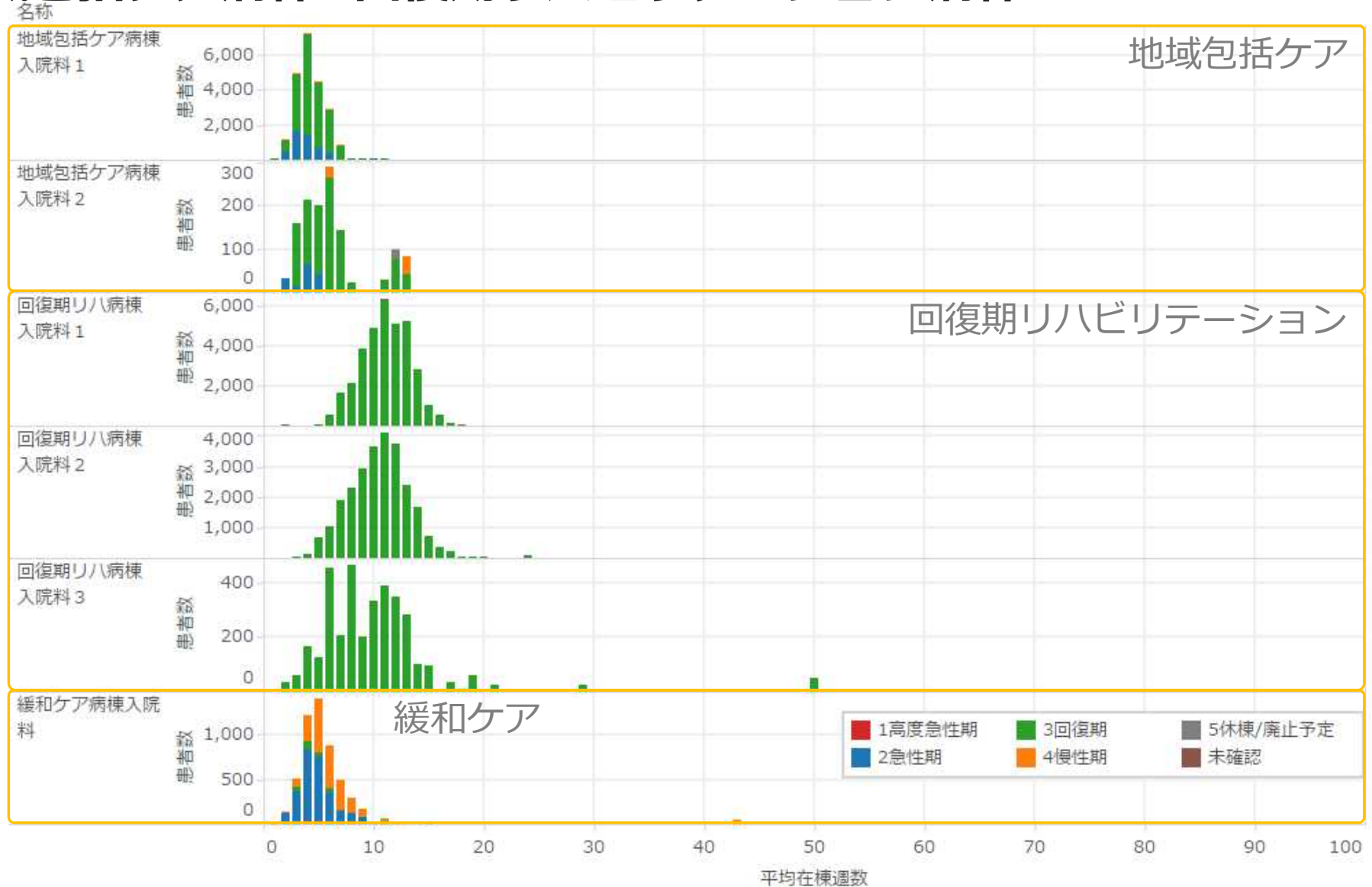
病棟の平均在棟日数の分布 (H28病床機能報告：2016年機能)

一般病棟 / 地域包括ケア病棟 / 回復期リハビリテーション病棟



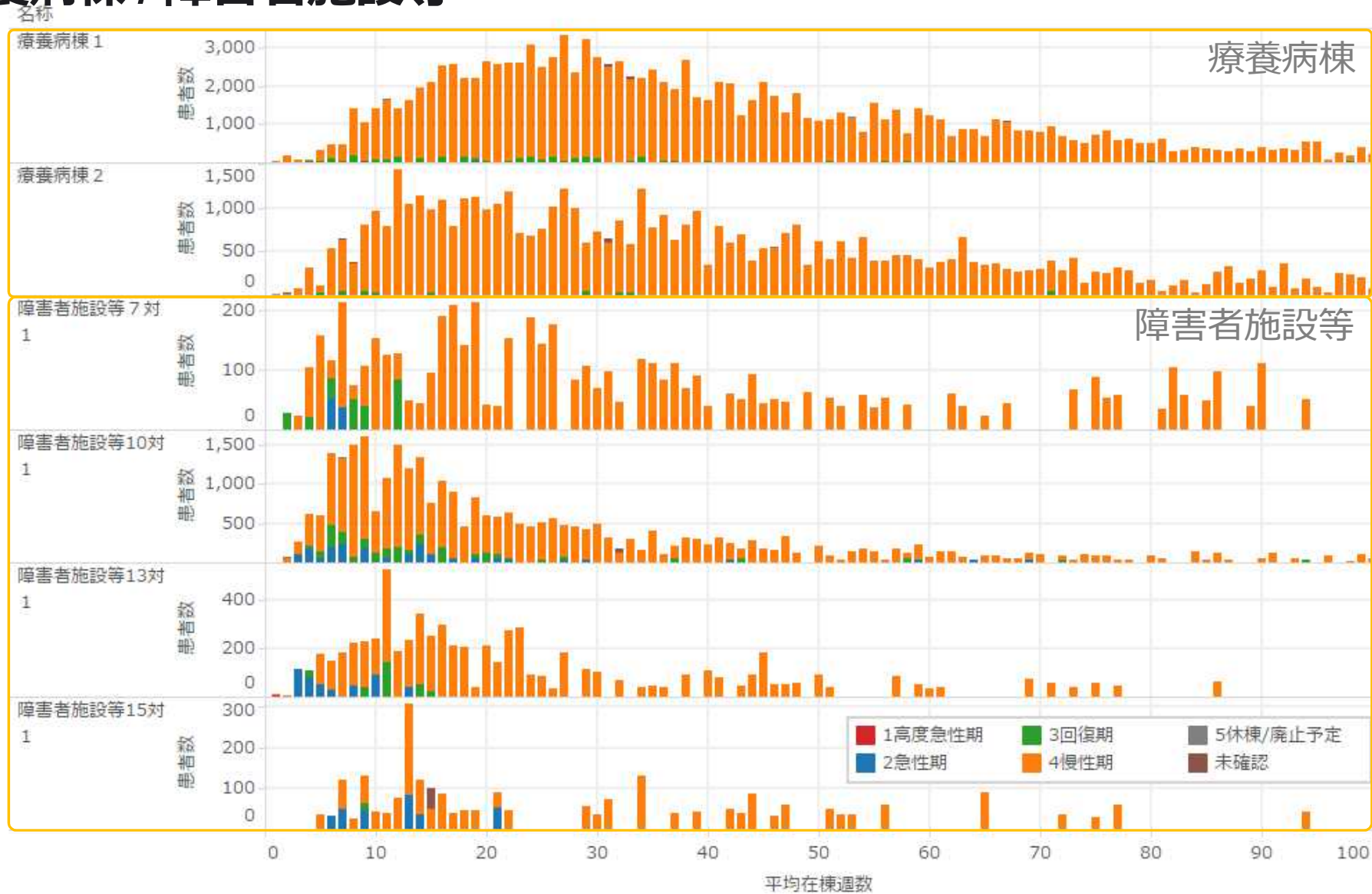
病棟の平均在棟週数の分布 (H28病床機能報告：2016年機能)

地域包括ケア病棟 / 回復期リハビリテーション病棟



病棟の平均在棟週数の分布 (H28病床機能報告：2016年機能)

療養病棟 / 障害者施設等



病棟別の平均在棟日数の分布状況から (H28病床機能報告)

病棟別の平均在棟日数について、最頻値を代表として見ると

- 救急救命 / ICU / HCU : 3 ~ 5 日程度、SCU : 8 日
- 一般病棟(7対1) : 12日(専門病院は9日)
- 一般病棟(10対1) : 18日
- 一般病棟(13対1) : 20日

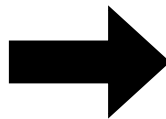
その他の病棟において、中心となる平均在棟日数は、

- 一般病棟(15対1) : 20~60日の範囲(最頻値は31日)
- 地域包括ケア病棟 : 20~28日の範囲(最頻値は24日)
- 回復期リハビリテーション病棟 : 40日以上



医療機能に対応した入院期間の目安になるのではないかと

- 高度急性期～急性期
- 急性期～回復期
- 回復期以降



より簡便な方法として、
ある一日の入院中の患者の在院日数別構成
により、その病棟の中心的な機能を知ることができるものと思われる

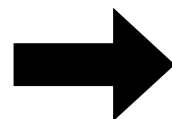
②入院中の患者の在院日数別構成 (H26厚労科研伏見班DPCデータ)

データ・方法等：

- 我が国の医療資源の必要量の定量とその適正な配分から見た医療評価のあり方に関する研究 (H27-政策-指定-009 / 研究代表者：東京医科歯科大学伏見清秀教授)
- 研究に協力する施設から提供を受けたDPC調査互換データ：平成26(2014)年度
 - 一般病院の退院患者の約半数(約700万件/1,000施設)に基づくもの
- 2014年6月30日(月)～7月6日(日)の**各日に在棟している患者について、病院に入院した日からの在院日数を計算**
- EFファイルに記録されている病棟コード別に集計し、入院基本料等の種類別の棒グラフとして表示 (**各日に入院中の患者の在院日数別構成**)

結果：

- **入院中の患者の在院日数別構成**は、病床の種類別に異なる
 - 7日以内**：救命救急 8割、ICU等 6割、一般病棟 4割、地域包括ケア病棟 1割未満
 - 14日以内**：救命救急/SCU 95%以上、ICU等 8割、一般病棟 6割、地域包括ケア病棟 15%程度
 - 28日超**：一般病棟 2割、地域包括ケア病棟 5割強、回復期リハビリテーション病棟 75%程度



病棟の中心的な機能の目安となるのではないか

入院中の患者の在院日数別構成 (H26厚労科研伏見班DPCデータ)

